

専門部会の検討状況

部会名 開催日時及び場所	現 状	課 題
協働のまちづくり部会 7月21日(火)午後1時～ 箕輪町役場301会議室 協議事項:課題抽出について	①住民参画(区や常会への未加入) ⇒加入しない人の意識の問題もあるが、活動内容(区費などの使われ方も含めて)が伝わっていない。 ②防災対策(消防団の人手不足) ⇒地域の理解はあるが、消防団自体に理解のないコミュニティの存在がある。 ②防災対策(セーフコミュニティの推進) ⇒もっと関心や防災意識を高め箕輪の魅力として発信 すべての活動につながる重要な事業 ③住みよいまちづくり(空き家対策) ⇒町調査より実際は多く、今後増加する可能性が大きい	①住民参画(区や常会への未加入) ⇒未加入者への理解を得るための説明(町も含めて)が不足 ②防災対策(災害時支えあいマップ) ⇒人のつながりは大事だが個人情報への壁がある ③住みよいまちづくり(空き家対策) ⇒町調査より実際は多く、今後増加する可能性が大きい 具体的な政策として取り組んでいない ④行政事務等(積極的な情報発信) ⇒ホームページをはじめとした発信力が低い ⇒町や団体のしていることが全く見えない ⇒HP欲しい情報がすぐに探せない ※共通して、どの分野においても、コミュニケーションや、人と人のつながりの重要性は理解できるが、実際の地域での活動には思うようにつなげにくいことが課題である。
健やかに心豊かに暮らせる部会 7月21日(火)午後6時～ 箕輪町役場201会議室 協議事項:課題抽出について	・「健康づくり」「医療体制」「地域福祉」「障がい者福祉」「高齢者福祉」の分野ごとに議論。 「分野共通」 ・健康づくりや福祉に関する事業の周知が不十分。知らないことが多い。 「健康づくり」 ・取り組みは一部の参加者に限られている。参加者の意識が肝心。踏み出す元気がない。 「福祉」 ・障がい者の居場所がない。 ・障がい者の移動手段、就労支援等支える仕組みがない。 ・介護保険の施設サービスは限界にきている。昔は近所づきあいの中で自宅できていたことが今はできない。	「分野共通」 ・町の事業の啓発不足。PRの工夫が必要。 「健康づくり」 ・やる気になるような魅力ある事業。良い指導者がいて導いてくれるとまた行こう、やろうという気持ちになるのでは。 ・行政主導のメニューの提示だけでは魅力がない。地域で盛り上げられるように一緒に作り上げるほうがよいのでは。 ・地元の見どころを入れたウォーキングマップと一緒に作る等 「福祉」 ・介護予防が大事ではないか。 ・高齢者同士で支えあう等地域で支えあうことも必要。有償ボランティアという考え方が必要でないか。 ・障がい者を隠さずオープンにし、差別なく暮らせる町になってほしい。 ・障がいに対する理解が深まるよう小・中学生の頃からの教育が大事ではないか。 ・障がい者の居場所づくり。フリースペース的な地域活動支援センターがあると良い。
明日を担う地域人材育成部会 7月23日(木)午後7時～ 箕輪町文化センター研修室5、6 協議事項:課題の抽出について	①『ひと味ちがう箕輪の子ども育成』は認知度が低く、ブランド化に至っていない 「はっきり言って町外の人でこの言葉を知っている人は少ない」 「町の子育てブランドは、他地域と明確な比較ができていないか」 「小学校では良い結果でいても、中学校までつながっていないのでは」 ②果たして『“箕輪”の明日を担う人材』の育成ができていないか？ 「町で育った子どもが将来地域を担う人材になってもらわなければならない」 「19、20歳の子どもに「箕輪に帰ってきたい」と思ってもらうことが大切」 「中学生以上の子どもに対する教育、人材育成の施策がほとんどない」 ③私たち自身、箕輪町の事をあまり知らない(暮らしやすさ、自然、歴史、文化) 「自分たちも気づいていない、外にPR、発信できない」 「「ふきはらの郷」という言葉の意味を知っている人がどれだけいるか。歴史、文化についてほとんど関心をもたれていない」 「まちづくりの柱として進めているフェンシングについてもほとんど知らない」 「町の様々な事を町民、子どもたちに伝えていくのも、教育・人材育成の役目」	【現状①に対する課題】 ・効果の検証・分析ができていない ・「ひと味」はプラスα 何がひと味ちがうのか、明文化、差別化ができていない ・PR、情報発信の充実が必要 ・保育園、小学校で培ったものの中学へのつながりが不十分 【現状②に対する課題】 ・小中学生だけでなく、特に重要な高校生以上に対するアプローチが必要 ・学校だけでなく、地域や企業も人材育成の担い手になる必要がある 【現状③に対する課題】 ・大人が知らないから子どもにも伝えられない ・子どもだけでなく、各世代で学べる環境作りが必要 ・町出身の有名、著名人が箕輪をPR、発信していけたら ・自然や文化を体験し、気づく機会の充実が必要 ・町外だけでなく、町内をターゲットにしたPRの充実も必要
住みよい都市基盤整備部会 7月27日(月)午後4時～ 箕輪町役場大会議室東側 協議事項:課題抽出について	・町道が改良率や舗装率で評価されているが、満足度が低い。利便性・安全性が必要 ・下水道の普及率はいいが、接続率の向上が必要。接続しなければ収入にもならない。	・景観の良いまちづくりをするために、農地と住宅開発とのバランスを考えることが必要。規制をかけながらやっていく方法があるのでは。 ・空き家の対策が大きな課題となるのでは。空き家の情報と宅地をどのようにリンクさせていくか。積極的な情報開示が必要。 ・道路整備について、優先度の高いものから歩道設置等安全性を高めることが必要。 ・道路整備の見通しが見えないことが課題。ある程度の整備状況の優先度や計画を知らせることが必要。 ・住宅とインフラ整備はセット。今後は維持管理の方向にシフトしインフラをやたらと増やさないことも必要。 ・上下水道について加入者の促進が必要。インフラの固定費の改修は重要。
ファミリー応援部会 7月28日(火)午後4時10分～ 箕輪町役場202会議室 協議事項:課題抽出について	・未婚の割合が高い 長男の未婚率が高い。 結婚願望がない、男性の積極性が足りない。 出会いの場が少ない。 ・安心して出産できる環境が整っていない。 医師不足、産婦人科医、小児科医は特に少ない。 ・子育て支援情報の発信が少ない、当事者だけでなく町民が知っている必要があり、町民が発信元となり他者に伝わるクチコミは大事。 ・家庭状況等により、夕方の子どもの居場所が必要。	・パートナーを作る喜びを知る。 ・家族、家庭の大切さの教育が必要。 ・公的助産施設の設立。 ・高齢出産の危険性の啓発、教育。 ・子育て支援情報の発信方法の検討、DVD等視覚から伝える方法が有効では。 ・図書館等を利用した子どもの居場所づくり。
産業の未来を考える部会	●農業・林業・工業・商業・サービス業など、田園工業都市「みのわ」である	●各産業とも、担い手や後継者不足、人材確保、人材育成、農林地の維持

7月30日(木)午後4時15分～
箕輪町役場202会議室
協議事項:課題の抽出について

- 長引く経済不況や少子高齢化などによりどの産業も大変厳しい
- 製造品出荷額が県内町村1位、町の大きな財源である
- 昼夜間人口比が100.0、町内に働く場がある
(昼夜間人口比率とは、夜間人口を100とした場合の昼間人口の指数)

- ◎雇用 ・希望の仕事ない、求人が少ない、学生戻らない、生産人口の流出
・賃金が安い、儲からない
- ◎農林 ・従事者の高齢化と後継者いない(林業顕著)、新規就農支援は手厚い
・何でもできるが、特産品がない
・補助金ありきの経営、国施策に振り回される、収入不安定
・土地利用の規制(農振地域など)
・林業の生産性は、山に入らない、担い手いない
- ◎観光 ・観光の素材が少ない、季節限定多い(赤そば、もみじ)、通過型観光地
・情報発信力が不足
- ◎商業 ・店主の高齢化、後継者の不足、プレミアム商品券効果的なのか
・商業圏が153バイパスへ、核分散、中心市街地は活気ない人いない
- ◎工業 ・製造品出荷額が県内町村1位、町の大きな財源
・昼夜間人口比100、町内に働く場がある
・中小の技術力高い、業種は多様、人材の確保と育成が難しい

- 農林業と商工観の連携(大学・民間含む)、新たな6次産業の育成
- 安定し高い収入が見込め、魅力を感じる産業の形成
- 行政がどこまで、何を支援するか

- ◎雇用 ・多様で魅力的な仕事確保、転入者へ優遇措置、教育環境(子供～従業員)
・第6次産業(農商工の連携)、雇用環境(子育て・福祉など)
- ◎農林 ・後継者や担い手の育成確保、学校と連携(食育・職業選択肢に)
・品質等のブランド化(技術指導)、付加価値のUP、販路の拡大(都市等)
・計画的な土地利用、土地開発と農村景観のバランス、農地の集積しづらい
・農業を町全体で支える仕組みづくり
・計画的な伐採、加工、バイオ燃料などに活用、大学や民間との連携
- ◎観光 ・広域的な観光の連携、農林業体験の活用、滞在型の観光へ
・旅行会社との連携、外部へのPR方法の検討
- ◎商業 ・後継者対策、空き店舗活用対策、プレミアム商品券の効果調査
・中心市街地活性化の取り組み(イルミなど)、商店街・個店の努力
- ◎工業 ・既存企業の定着、新規企業の誘致
・共同で開発製造流通販売、第6次産業の育成(農林商工観の連携)
・学校と連携し人材確保と育成(南信工科短期大学など)、インターン制度